

「籠の中」

—修正稿—

2026/6/8

脚本 太郎

〈人物表〉

淀川 文夏

(17)

殺人者、高校生

霧崎 宴蔵

(70)

殺人者

春野 綜

(43)

殺人者

1. マンション・7階・廊下（夜）

淀川文夏（17）、足早に歩いている。挙動不審に
辺りを伺いながら。制服姿で衣服が乱れている。肩
からスクールバッグを提げている。
スクールバッグが肩からずり落ちてしまう。中から
血の付いた包丁が出てくる。

淀川、慌てて包丁をスクールバッグに仕舞う。

× × ×

エレベーターの駆動音がし始める。

霧崎宴蔵（70）、ゆったりとした足取りで歩いて
いる。

エレベーターの駆動音、徐々に大きくなっていく。

宴蔵の手には釣り用のクーラーボックス。

エレベーターの開く音。

2. マンション・エレベーター内（夜）

エレベーターは下降している。

背面には鏡がある。

淀川と宴蔵、並んで立っている。

淀川、鏡を見ながら、落ち着かなげに衣服の乱れを
直している。

宴蔵の持つクーラーボックスをちらちら見る。

宴蔵、面白がるように、

宴蔵 「気になりますか？」

淀川、ギョツとして口ごもる。

エレベーターの駆動音が大きくなっていく。

淀川、顔をひくつかせ、目を泳がせる。

エレベーターん駆動音が小さくなっていく。

エレベーターが止まる。

扉が開く。その先には春野綜（43）。

綜、全身血塗れ。顎の先から血がつららのように滴
っている。

手には包丁。そこからも血が滴っている。

淀川、息を呑む。

宴蔵、失笑。

綜、無然とした態度でエレベーターに入ってくる。

淀川、後ずさって壁にぶつかる。

扉が閉まる。

エレベーター下降。

綜、二人の視線を感じ苛立った様子で、

綜 「何すか？」

淀川、過呼吸気味になりながら何度も首を振る。

宴蔵、鼻で笑う。

その時、激しい地震が起こる。

宴蔵、派手に倒れる。

クーラーボックスが落ちる。

淀川、しりもちつく。

綜、踏ん張る。

すぐに耐えきれなくなり、膝をつく。

エレベーターが停止。

地震が収まる。

綜、立ち上がる。

舌打ち。

淀川、起き上がろうとするも、力が抜け、すぐに座

り込む。

宴蔵、辺りを見回す。

ニヤニヤし、鼻で笑って、

宴蔵 「誰も動きませんか。主体性がないですなあ」

よろよろと立ち上がる。

宴蔵 「こんな**老いぼれ**を働かせるなんてねえ」

操作盤の方に歩いていく。

宴蔵 「良いですか？ こういうときは……」

インターホンに指を添え、

淀川 「駄目」

宴蔵、振り返る。

その顔は嫌らしく笑っている。

宴蔵 「何ですか？ 何故止めるんです？ 何か後ろめたいこと

でもあるんですか？」

淀川 「いえ……」

綜、憮然と、

綜 「何かまずそうな顔だな」

宴蔵 「あなたはもっとまずいでしょう」

綜、宴蔵のクーラーボックスを包丁でさし、

綜 「アンタこそそのクーラーボックスの中、何が入ってるんだ？」

宴蔵、嬉しそうに笑って、

宴蔵 「気になる？ 気になっちゃいます？」

淀川、必死に首を振る。

宴蔵 「いやお嬢さん、もうやめましようよ。分かってるんです

から。ここに居る三人全員人殺しなんでしょう」

淀川、涙目で、

淀川 「違う……わたしはやってない。わたしは違う」

宴蔵 「血の匂いが濃すぎる」

淀川を指さし、

宴蔵 「誰か殺した直後ってところでしょ」

綜を指さし、

宴蔵 「あなたはほぼ**現行犯**でしょうが」

自分を指さし、

宴蔵 「そしてわたしは、埋めに行く処です。ちょっとずつやってまして、今日ようやく頭に取り掛かるところだったんですよ」

自慢げに笑って、

宴蔵 「ほら見てください、自慢の妻です」

クーラーボックスを開いて中身を見せる。

綜、感心した様子で、

綜 「わお、美人」

淀川、悲鳴を上げる。

宴蔵、照れたように笑って、

宴蔵 「でしょう、そうでしょう」

直後に宴蔵、綜の頭にクーラーボックスを叩き付ける。

綜、クーラーボックスを弾き飛ばすも、よろめく。

宴蔵が懐から血の付いた包丁を取り出す。
振りかぶる。

淀川の悲鳴。

直後、エレベーターが動き出す。

急降下。

宴蔵がしりもちをつく。

綜、手すりを掴んで踏ん張る。

エレベーター、徐々にスピードを弱める。

綜が駆け出す。

綜、宴蔵の首に包丁で一閃。

エレベーターが停止。

宴蔵、目を見開いて、神妙な表情で、

宴蔵 「こおれが死ですかあ」

血が飛び散る。

綜の顔に返り血がかかる

淀川の悲鳴。彼女の顔にもべったりと返り血がついている。

宴蔵が倒れる音。

淀川、何度もエレベーターのドアを叩く。

エレベーターのドアが開く。

その先には一組の若いカップル。

カップル、悲鳴を上げる。

淀川も悲鳴を上げる。

3. マンション・1階・エレベーター前（夜）

淀川がカップルをかき分けるようにして走り去る。

カップル、悲鳴を上げながら後ずさる。

エレベーター内から人影が近付いてくる。

人影が持っている包丁が空を切る。

壁にカップルたちの返り血が付着。

4. 住宅街・通り（夜）

淀川、必死に走っている。

後ろを振り返る。

どこからともなく現れた血が降りかかる。
悲鳴を上げる。

半狂乱で喚きながら、走り出す。

5. コンビニ・店内（夜）

血塗れの淀川が入店。

よろめきながら数歩進む。

店内が騒然となる。

淀川、顎の先から血がつららのように滴っている。

手に持った血まみれの包丁を振り回し、

淀川 「助けてください、お願いします、助けてください」

血があちこちに飛び散る。

客や店員、淀川と距離を取る。

店から逃げだす者もいる。

淀川、ハッとしたように包丁を見る。

6. マンション・エレベーター内（夜）

一面血塗れ。

宴蔵と綜が倒れている。

7. コンビニ・店内（夜）

店員や客、淀川から距離を取り硬直している。

淀川、宴蔵と同じ嫌らしい笑みを浮かべる。

包丁を掲げて辺りを見回し、

淀川 「気になります？」

終